

## 令和 8 年度第 1 回 旭川市食育推進会議 会議録（要旨）

日時：令和 8 年 7 月 2 日（木）

午後 6 時 30 分～午後 7 時 50 分

場所：旭川市総合庁舎 7 階 大会議室 B

### 1 開会

- ・開会宣言
- ・議題等の説明
- ・配付資料等の確認

### 2 委嘱状交付

- ・委員就任した 16 名への委嘱状交付について説明、出席委員への交付

### 3 挨拶

- ・旭川市健幸保健部長 挨拶

### 4 委員紹介

（資料 1 旭川市食育推進会議委員名簿、旭川市食育推進関係部局会議構成員名簿）

- ・委員名簿順に委員各位の紹介 委員挨拶
- ・事務局挨拶

### 5 正副会長選出

（資料 2 旭川市食育推進会議条例）

- ・正副会長選出
- ・正副会長挨拶

### 6 議事（1）会議の運営等について

（第 4 次旭川市食育推進計画概要版（旭川市の食育））

（資料 3 旭川市食育推進会議の公開等に関する取扱い（案））

（事務局）

- ・第 4 次旭川市食育推進計画の概略について説明
- ・事務局から内容を説明し、会議の公開等について案のとおりとした。

### 6 議事（2）報告事項 令和 7 年度食育関係事業実績について

（資料 4 令和 7・8 年度 市の主な食育関係事業一覧）

（資料 4-2 あさひかわ食育推進月間実施要綱）

- ・事務局から資料 4 の基本施策に基づく事業の概略、あさひかわ食育推進月間について説明。

【御意見・御質問及び回答】

(A委員)

- ・消費者と農業生産者の交流を進める事業は大切であり、今後も交流の場を増やしてほしい。
- ・「田んぼのキセキ事業」について、受け入れ農家は1件か。

(事務局)

- ・「米どころ旭川・田んぼのキセキ事業」は今年から始まる取組で、実施校は1校、1農家が受け入れている。
- ・田植えから収穫、家庭科での炊飯・試食までつなげる、とても魅力的な事業であり、今後さらに受け入れ農家の協力が得られるとよいと考えている。

(B委員)

- ・食品ロスについて、自身も農家として規格外品をNPO法人に寄付している。
- ・規格外品は必ず出るものであり、余ったものは従業員や自宅、近所で消費されることが多い。一方で、食べることに困っている人もいると思うので、この会議でも知恵を出し合えたらよいと感じた。

6 議事(3)議題 ア 令和8年度食育推進事業計画について

(資料4 令和7・8年度 市の主な食育関係事業一覧)

- ・事務局から、令和8年度食育関係事業について説明。

6 議事(3)議題 イ 令和8年度旭川市食育に関するアンケート調査の質問項目について

(資料5 令和8年度 旭川市食育に関するアンケート調査票(案))

(資料6 アンケート調査比較表)

(事務局)

- ・令和8年度は、第4次旭川市食育推進計画の評価及び第5次旭川市食育推進計画策定の基礎資料を得るとともに、効果的な食育推進施策を推進するため、無作為に抽出した市民約4,000名を対象に栄養調査と食育に関する意識調査の2つの調査を実施する予定。
- ・資料6にて、令和3年度調査と令和8年度の案を比較しており、変更箇所を赤字で示している。備考欄に「指標」と記載のある設問は市の食育推進計画の指標項目の評価に使用するため、基本的には設問の内容を変更せずに、前回と同様の設問としたい。
- ・令和8年度の調査はインターネットで回答できるよう作業を進めている。
- ・食育に関するアンケートの設問内容やレイアウト等については、令和7年度第2回食育推進会議の場で一度審議いただいております、その意見等を踏まえて修正を加えた案について、協議いただきたい。

【御意見・御質問及び回答】

(C委員)

- ・問 22 の「郷土料理」「伝統料理」は、北海道の地域性を考えると少しなじみにくいのではないか。
- ・「おいしい料理を食べているか」や、手軽においしく調理できる方法を学んでいるかを聞く方がよいのではないか。

(会長)

- ・国の食育推進基本計画では、伝統的な食事を受け継ぐことが評価項目になっているため、問 22 は残しておく必要がある。
- ・家庭の味に関する質問を加えることも考えられる。
- ・まずは今の内容で進めて、補足の質問は今後の検討としたい。

(C委員)

- ・郷土料理や伝統料理と言われても、人によって思い浮かべるものが違う。
- ・北海道でこの設問を置くのは、少し不思議な感じがする。

(D委員)

- ・北海道にも、ニシン漬けや甘納豆入りの赤飯、石狩鍋など、地域ならではの食文化がある。
- ・数は多くなくても、こうした食文化は残していきたい。

(副会長)

- ・年越しそばを入れるなら、おせちやお雑煮も地域ごとの違いがあるので、入れてもよいのではないか。

(C委員)

- ・年越しそばは、アレルギーのこともあるので、あまり広げないでほしい。

(事務局)

- ・調査票や設問は、国の食育アンケートとほぼ同じ文言を使っている。
- ・郷土料理や伝統料理は、固定されたものだけでなく、家庭料理や食習慣の継承も含めて考えている。

(E委員)

- ・家庭の中で郷土料理を問うのは、少し難しい。
- ・この質問は、やや分かりにくいところがある。

(C委員)

- ・今後を考えると、この設問は少し合わないのではないか。
- ・むしろ、おいしい料理の作り方を気軽に教わっているかなどを聞きたい。

(F委員)

- ・目標の評価のために置いている質問だと受け止めている。
- ・国の指標をもとに目標を立てているので、同じ指標でないと評価が難しい。
- ・C委員の意見はもっともだが、評価のためには外しにくい。

- ・郷土料理や伝統料理の捉え方は人それぞれで、北海道では家庭ごとの違いも大きい。
- ・目標が変われば評価項目も変わるが、今は残した方がよいと思う。

(会長)

- ・問 22 はそのままとし、次の機会に補足の質問を考えられればよい。

(B 委員)

- ・問 21 に、今後もやってみたいか、何を体験したいかを加えるとよい。
- ・市の農業体験や、生産者側の受け入れの参考にもなる。

(会長)

- ・今から質問を追加できるか確認したい。

(事務局)

- ・質問票は、追加するには文字の大きさや余白を考える必要がある。
- ・設問には一定の制約があるが、回答者ともう一度つながる仕組みがあれば、追加で聞くこともできる。
- ・この会議若しくは市として知りたいことを聞く機会として、今後の検討につなげたい。

(会長)

- ・内容はそのまま進める。
- ・いただいた意見は事務局で整理し、次につなげたい。

## 7 その他

- ・事務局から連絡事項伝達

## 8 閉会